

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等	(砂)西山沢					
事業毎の通番		1	市町村名	佐久市	箇所名(ふりがな)	田口(たぐち)				
事業概要	事業目的	西山沢は、長野県東部の佐久市に位置し、保全対象として人家5戸、主要地方道下仁田臼田線を含む流域面積0.57km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により市道及び県道に土砂が流出した。流域内は、渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。								
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法					
	関連する事業、計画等									
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家5戸、主要地方道下仁田臼田線、市道								
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	6.2	国庫	その他	県債	一般財源		
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 溪流保全工 L=225m			405,000	202,500		162,000	40,500		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、重要交通幹線などの保全								
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり								
評価の視点	必要性	<input type="checkbox"/> 保全人家 : 5戸 <input type="checkbox"/> 保全公共施設 : 主要地方道下仁田臼田線、市道 <input type="checkbox"/> 保全要配慮者利用施設 : なし <input type="checkbox"/> 避難場所、避難路 : 主要地方道下仁田臼田線							評価	B
	重要性	<input type="checkbox"/> 災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) <input type="checkbox"/> 交通影響 : 影響度大(主要地方道下仁田臼田線) <input type="checkbox"/> 位置付け : 長野県及び佐久市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流)							評価	A
	効率性	<input type="checkbox"/> 費用対効果(B/C) : 6.23 <input type="checkbox"/> 事業期間 : 3年間 <input type="checkbox"/> 工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり <input type="checkbox"/> 流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)							評価	A
	緊急性	<input type="checkbox"/> 地形地質 : 地質が脆弱(火山堆積物) <input type="checkbox"/> 流域植生 : 倒木多数あり <input type="checkbox"/> 平均渓床勾配・土砂整備率 : 7°・整備率0% <input type="checkbox"/> 危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり							評価	A
	計画熟度	<input type="checkbox"/> 事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 <input type="checkbox"/> 地域の取り組み : 協力的である(佐久市より要望あり) <input type="checkbox"/> 地域の合意形成 : 合意形成が図られている <input type="checkbox"/> 住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップ作成) <input type="checkbox"/> OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9							評価	A
	所管課の意見	当該溪流の保全対象には人家5戸及び県道等が立地しており、近年の災害履歴から速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	○			
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				総合評価	A				
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手				

位置図

流域概要図

事業概要説明図表

全景

航空写真

不安定土砂堆積状況

土砂流出状況

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	西山沢は、長野県東部の佐久市に位置し、保全対象として人家5戸、主要地方道下仁田臼田線を含む流域面積0.57km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により市道及び県道に土砂が流出した。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年東日本台風により市道及び県道に土砂が流出したことから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	令和元年東日本台風による被害を受けて、今後の対応について地元説明会を開催。(R1年12月)
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、主要地方道下仁田臼田線が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 11' 39"
東経:E 138° 31' 04"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	(砂)漆入沢		
事業毎の通番	2	市町村名	佐久穂町	箇所名(ふりがな)	古谷(こや)	
事業目的	漆入沢は、長野県東部の佐久穂町に位置し、保全対象として人家5戸、指定避難所(大日向生活改善センター(1区))を含む流域面積A=0.26km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家5戸、指定避難所、町道					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	3.9		国庫 其他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	床固工 1基 渓流保全工 L=124m		190,000	95,000	76,000 19,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的) 人家、指定避難施設、交通幹線などの保全					
	間接的効果(定量的・定性的) 災害に強い地域づくり					
評価の視点	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ○保全人家 : 5戸 ○保全公共施設 : 大日向生活改善センター(1区)、町道 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 大日向生活改善センター(1区) 			評価	B
	重要性	<ul style="list-style-type: none"> ○災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) ○交通影響 : 影響度中(町道) ○位置付け : 長野県及び佐久穂町地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流) 			評価	A
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ○費用対効果(B/C) : 3.91 ○事業期間 : 2年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし) 			評価	A
	緊急性	<ul style="list-style-type: none"> ○地形地質 : 地質が脆弱(火山堆積物) ○流域植生 : 倒木多数あり ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 18°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり 			評価	A
	計画熟度	<ul style="list-style-type: none"> ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(佐久穂町より要望あり) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップ作成) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 			評価	A
所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家5戸及び避難所等が立地しており、近年の災害履歴から、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手	

位置図

佐久穂町役場 事業箇所

航空写真

流域概要図

国道299号 町道 漆入沢 床固工 1基 渓流保全工 L=124m 災関砂防堰

保全対象

① 人家への土砂流入状況 ② 不安定土砂堆積状況 ③ 大日向生活改善センター(1区) ④ 人家5戸 大日向生活改善センター(1区)

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	漆入沢は、長野県東部の佐久穂町に位置し、保全対象として人家5戸、指定避難所(大日向生活改善センター(1区))を含む流域面積A=0.26km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年東日本台風により土石流が発生し、住宅に被害があったことから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係者に事業の目的・効果等について説明済み(R3年11月) 流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施済。用地測量も済んでいる。R4に激特で用地買収予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、町道が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地指定済(R4.2)

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 07' 33" 東経:E 138° 34' 38"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等		(砂)茂沢		
事業毎の通番		3	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)		茂沢(もさわ)	
事業概要	事業目的	茂沢は、長野県東部の長和町南部に位置し、保全対象として人家6戸及び第一次緊急輸送路である国道254号を含む流域面積1.40km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、床固工を施工し土石流災害を未然に防止する。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		砂防法		
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家6戸、(国)254号、市道						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	1.6		国庫	その他	県債
全体事業内容(主な工種)	床固工 1基			130,000	65,000		52,000	13,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、重要交通幹線などの保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり						
評価の視点	必要性	○保全人家 : 6戸 ○保全公共施設 : 国道254号、市道 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 国道254号(第一次緊急輸送路)					評価	B
	重要性	○災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) ○交通影響 : 影響度大(国道254号) ○位置付け : 長野県及び上田市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流、緊急輸送路)					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.63 ○事業期間 : 2年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)					評価	A
	緊急性	○地形地質 : 地質が脆弱(火山堆積物) ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 4°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(上田市より要望あり) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(防災訓練の実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9					評価	A
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家6戸及び緊急輸送路等が立地しており、近年の災害履歴から、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。				採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図	流域概要図	
事業周辺環境	①保全対象(人家・国道254号)		
	②不安定土砂堆積状況		
	③土砂流出状況		
	航空写真		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	茂沢は、長野県東部の長和町南部に位置し、保全対象として人家6戸及び第一次緊急輸送路である国道254号を含む流域面積1.40km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、床固工を施工し土石流災害を未然に防止する。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年東日本台風による豪雨により土石流が発生し、住宅に被害があったことから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。	
	③事業説明等の経緯	関係者(地元住民、地権者等)に事業の目的・効果等について説明済み。(R1年11月)	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-		
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。		
⑥人口減少・少子高齢化 を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道152号等が保全され、物流、人流が確保される。		
⑦その他	砂防指定地指定済み(R3.4.7)		
事後・再評価からのフィードバック	本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い事業代表地点の緯度経度		北緯:N 36° 18' 8" 東経:E 138° 10' 42"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等		(砂) 洪沢川	
事業毎の通番		4	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)		洪沢(しづさわ)
事業概要	事業目的	洪沢川は、長野県東部の長和町に位置し、保全対象として人家5戸及び第一次緊急輸送路である国道144号を含む流域面積3.45km ² の土石流危険渓流Ⅰである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等		砂防法	
	関連する事業、計画等						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家14戸、(国)144号、町道					
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 渓流保全工 L=180m			400,000	200,000	160,000	40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、重要交通幹線などの保全					
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり					
評価の視点	必要性	<input type="checkbox"/> 保全人家 : 14戸 <input type="checkbox"/> 保全公共施設 : 国道144号、市道 <input type="checkbox"/> 保全要配慮者利用施設 : なし <input type="checkbox"/> 避難場所、避難路 : 国道144号(第一次緊急輸送路)					評価
	重要性	<input type="checkbox"/> 災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) <input type="checkbox"/> 交通影響 : 影響度大(国道144号) <input type="checkbox"/> 位置付け : 長野県及び上田市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流、緊急輸送路)					評価
	効率性	<input type="checkbox"/> 費用対効果(B/C) : 1.14 <input type="checkbox"/> 事業期間 : 3年間 <input type="checkbox"/> 工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり <input type="checkbox"/> 流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)					評価
	緊急性	<input type="checkbox"/> 地形地質 : 地質が脆弱(火山堆積物) <input type="checkbox"/> 流域植生 : 放置林 <input type="checkbox"/> 平均渓床勾配・土砂整備率 : 5°・整備率0% <input type="checkbox"/> 危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり					評価
	計画熟度	<input type="checkbox"/> 事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 <input type="checkbox"/> 地域の取り組み : 協力的である(上田市より要望あり) <input type="checkbox"/> 地域の合意形成 : 合意形成が図られている <input type="checkbox"/> 住民との協働 : 住民参加型の事業(防災訓練の実施) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9					評価
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家14戸及び緊急輸送路等が立地しており、近年の災害履歴から、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	位置図	流域概要図		
				
				
				
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	洪沢川は、長野県東部の長和町南部に位置し、保全対象として人家5戸及び第一次緊急輸送路である国道144号を含む流域面積3.45km ² の土石流危険渓流Ⅰである。令和元年東日本台風による豪雨により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年東日本台風による豪雨により土石流が発生し、住宅に被害があったことから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。		
	③事業説明等の経緯	関係者(地元住民、地権者等)に事業の目的・効果等について説明済み。(R1年11月)		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-			
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。			
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道152号等が保全され、物流、人流が確保される。			
⑦その他	砂防指定地申請済み			
事後・再評価からのフィードバック	本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 29' 27" 東経:E 138° 21' 50"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	宮戸沢	
事業毎の通番	5	市町村名	上松町	箇所名(ふりがな)	宮戸(みやと)
事業目的	宮戸沢は、長野県南部の木曾郡上松町に位置し、保全対象として人家2戸、事業所2施設、第1次緊急輸送路である国道19号、鉄道(JR中央西線)を含む流域面積A=4.03km ² の土石流危険渓流Iである。令和3年8月の大雨により土石流が発生し、国道、鉄道とも通行止め、避難指示がでる規模の災害となった。流域内は、不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により再度土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法	
関連する事業、計画等					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家2戸、事業所2施設 国道19号、JR中央西線、町道				
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2029年度(令和11年度)	費用対効果	1.5	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			400,000	200,000 160,000 40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・人家、重要交通幹線などの保全			
	間接的効果(定量的・定性的)	・災害に強い地域づくり			
評価の視点	必要性	○保全人家：2戸 ○保全公共施設：国道19号、JR中央西線、町道、木曾林振協センター、木曾官材市売協同組合 ○保全要配慮者利用施設：なし ○避難場所、避難路：国道19号			評価 B
	重要性	○災害履歴：令和3年8月に実被害(通行止め、避難指示あり) ○交通影響：影響度大(国道19号、JR中央西線) ○位置付け：長野県及び上松町地域防災計画上の位置付けあり(緊急輸送路、土石流危険渓流I)			評価 A
	効率性	○費用対効果(B/C)：1.45 ○事業期間：7年間 ○工法等の比較検討：堰堤形式について比較検討あり ○流域の総合調整：調整済(保安林なし)			評価 A
	緊急性	○地形地質：地質が脆弱(花崗岩質) ○流域植生：放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率：9.6°・整備率0% ○危険地区：土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である(上松町より要望あり) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民参加型の事業(警戒避難体制が構築されている) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9			評価 A
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家2戸及び緊急輸送路、鉄道等が立地しており、近年の災害履歴から、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。	採択状況	総合評価 A	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

位置図

至 松本市
上松町 上松町役場
事業箇所
至 岐阜県

流域概要図

砂防堰堤 1基
(国)19号(第一次緊急輸送路)
至 岐阜県

事業概要説明図表

2

住家への土砂・流木流入状況

3

上流域での荒唐状況

事業周辺環境

①被災状況と保全対象 (R3.8.15撮影)

②被災状況と保全対象 (R3.8.15撮影)

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	宮戸沢は、長野県南部の木曾郡上松町に位置し、保全対象として人家2戸、事業所2施設、第1次緊急輸送路である国道19号、鉄道(JR中央西線)を含む流域面積A=4.03km ² の土石流危険渓流Iである。令和3年8月の大雨により土石流が発生し、国道、鉄道とも通行止め、避難指示がでる規模の災害となった。流域内は、不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により再度土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和3年8月の大雨により土石流が発生し、国道や鉄道に通行止めが生じる規模の被害を受けたため、整備の必要性は大きいことが周知されている。上松町からも強く要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係機関(国道、JR、町、県(砂防・治山))において、連絡調整会議を実施済み(R3.9月他)今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。また、基幹交通である国道19号、JR中央西線等が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透透型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35.74694444
東経:E 137.7141666

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	仙石		
事業毎の通番	6	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	仙石1(せんごく1)	
事業目的	本溪流は、千曲川左岸に位置する支川で流域面積0.46km ² の土石流危険渓流Ⅰである。土砂災害警戒区域内には保全人家158戸、小学校(指定避難所・要配慮者利用施設)及び仙石分館(指定緊急避難場所)・県道内川姨捨停線等が含まれている。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、倒木が多数発生している。今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家158戸、指定避難所・要配慮者利用施設(更級小学校)、指定避難所(仙石分館)、西組集会所、千曲警察署更級駐在所、県道(内川姨捨停線)、市道、橋梁4基					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	24.9	国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			600,000	300,000	240,000 60,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、指定避難施設、要配慮者利用施設、交通幹線などの保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり				
評価の視点	必要性	○保全人家 : 158戸 ○保全公共施設 : 小学校、仙石分館、西組集会所、千曲警察署更級駐在所、県道、市道 他 ○保全要配慮者利用施設 : 小学校 ○避難場所、避難路 : 小学校(指定避難所)、仙石分館(指定避難所)				評価 A
	重要性	○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度大(県道内川姨捨停線、市道) ○位置付け : 地域防災計画上の位置付けあり(指定避難所、指定緊急避難場所、要配慮者利用施設、土石流危険渓流Ⅰ)				評価 B
	効率性	○費用対効果(B/C) : 24.90 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤位置について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし)				評価 A
	緊急性	○地形地質 : 地質が脆弱(火山岩) ○流域植生 : 倒木多数あり ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 10.8°・整備率0% ○危険地区 : 土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域内あり				評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(千曲市より要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(地区防災マップ) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3				評価 A
	所管課の意見	当該溪流の保全対象には人家158戸及び要配慮者利用施設、避難所等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。			採択状況	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
			
事業周辺環境	航空写真		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本溪流は、千曲川左岸に位置する支川で流域面積0.46km ² の土石流危険渓流Ⅰである。土砂災害警戒区域内には保全人家158戸、小学校(指定避難所・要配慮者利用施設)及び仙石分館(指定避難所)・県道内川姨捨停線等が含まれている。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、倒木が多数発生している。今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成20年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家等が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。	
	③事業説明等の経緯	今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	—	
	⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。	
	⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、生活道路である県道内川姨捨停線、市道等が保全され、物流、人流が確保される。	
⑦その他	砂防指定地申請予定		
事後・再評価からのフィードバック	本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透型砂防堰堤を検討している。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 29' 13" 東経:E 138° 7' 4"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防		路河川名等	笹平沢		
事業毎の通番	7	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	若穂保科(わかほしな)	
事業目的	笹平沢は、長野県北部の長野市に位置し、保全対象として主要地方道長野菅平線、林道、人家8戸を含む流域面積4.03km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業に着手している。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家8戸、事業所6施設 主要地方道長野菅平線、林道					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2029年度(令和11年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他 県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基 溪流保全工210m			500,000	275,000 175,000 50,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・人家、重要交通幹線などの保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	・災害に強い地域づくり				
評価の視点	必要性	○保全人家 :8戸 ○保全公共施設 : 主要地方道長野菅平線、林道 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 主要地方道長野菅平線			評価	B
	重要性	○災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) ○交通影響 : 影響度大(主要地方道長野菅平線) ○位置付け : 長野県及び長野市地域防災計画上の位置付けあり			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.03 ○事業期間 : 7年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済み(保安林なし)			評価	B
	緊急性	○地形地質 : 玄武岩 ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 10°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(若穂地区より要望あり) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップ作成) ○OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9			評価	A
	所管課の意見	当該渓流の保全対象には人家8戸及び県道等が立地しており、近年の災害履歴から速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。		採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手	

位置図

流域概要図

不安定土砂堆積状

事業概要説明図表

保全対象

①

事業所

②

主要地方道長野菅平

航空写真

災害関連緊急砂防事業

③

砂防堰堤 1基

溪流保全工 L=210m

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	笹平沢は、長野県北部の長野市に位置し、保全対象として主要地方道長野菅平線、林道、人家8戸を含む流域面積4.03km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業に着手している。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和元年東日本台風による豪雨により令和元年10月12日に土石流が発生し、県道に土砂が流出する被害があったことから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。
③事業説明等の経緯	関係者に事業の目的・効果等について説明済み。(R1年12月)
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	-
⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮	気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。
⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、主要地方道長野菅平線が保全され、物流、人流が確保される。
⑦その他	

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 36' 07"
	東経:E 138° 17' 6"